北斎女今川　全

Onna Imagawa

尾張東壁堂藏版畫譜畫手本目録

北斎漫画　富嶽百景　大鳳麁画
北斎臨画　一筆画譜　蕙斎麁画
北斎画譜　金氏画譜　神事行燈
北斎画図　英泉画譜　狂画苑
北斎画[illegible]　英勇画譜　浮世画手本
北斎庭訓　浮世画譜　福善斎画譜
北斎女今川　光琳漫画　武勇魁図絵

書肆　名古屋本町通七丁目　永楽屋東四郎

なへて世の女は有にきまりし父母に
はなれて夫の家に行舅姑に仕へて拘
学ひとられ多くも物ゝ常に高く
いとまはなき閑もいとまもなけれは余所
のわきまへぬやうに心を揺させつゝ
ほうつ律日をとあてたる尽ぞいとも
られさき様もしなみ女の書の学ひ
てかとしくしきをふくきとのふたん
古の人もちくさしあきつまと侍るは

まさに道をしぬきもむねに心とゆるまさ
にしてよほふらし道をきはめはあれ
ことはりよりいでゝこそ人とよべき書
もしを印し阿仏の尼の庭のをしへ
乳母のふみしたんとぞ伝んとすべきものにし
あれと中にも此世のならはしきたなれも
伝とも我ふたりしうちもねもやすれみそ
それもこ大人の人に志しれきさそふて
ふ世の鏡しるしふミの今にてゝ書ミ
かの行儀の君なちとしの胴になまひて

つゞまりし撰らいとはせこゝろにかなへら
ひし要ぬれどもいまの世のをとめらの
ためみたまきさたしらのぬきみて
多なかり勤より讀せも書せずして
ろその心を志らせりとまにはるかなり
みやおのつらよしあしのよきしまへを
志るたよりとなりて業めやまをまぬ
べきことのふかんさ白ふまつこ生心を示く
上手の名に撰させかんるにぎさへそ傳てあら
さふ名り出せる跡まそり紫よ錦の上ふ

花の枝をおきこんとひきよせられてうる
はしくもめてたくもおほゆれあはれ世の
女子ともある歌よみもさらぬ人もさらにも
おひさきこもれる窓のうちへりつまとの
みもしるひてひと筆はたるをかすかなよ
さしおく世のひねあへし物となるし
まきつけはなひ我ともそひなふ祝らつも
めのさ發るひとつの妻ひいそ来ぬるよろ
おもひの余りなりけり

源瑜


北斎
女今川

今川になぞらへて女子を
いましむる制詞の条々
一常に心ざしかだましく女乃
こゝもちゐゝゝのなしらばる事
一若盛女無益の文章

一 参(まい)り楽(たの)しむ事

一 わしき過(あやま)ちとして沒をぞ破(やぶ)る

生まれて人を恨(うらむ)る事

一 小事(せうじ)とも悪(わろ)く思ふしめ考(かんがへ)

如く見聞(けんもん)誹謗(ひばう)する事





一 大事(だいじ)をも朋輩(ほうばい)へかたりちらさぬ人をめしつかふ事

一 主(しう)親(おや)の深(ふか)き恩(おん)を忘(わす)れぬへく

一 忠(ちう)孝(こう)の道(みち)疎(おろそ)かなる事

一 夫(おつと)をかろしめ我まゝを立(たて)ゝ

一 天道を恐れざる事

一 道に背きて業を欲するの
輩と親しく睦ぶ事

一 正直なる無道人を
輕しむる事





一 遊びに長じ或ハ音曲に耽る

一 或ハ見物をことゝし好む事

一 短慮にして嫉妬の心ふかく

一 人の嘲を恥ぢざる事

一 女の猿利根にて学び文

事に就人を誑すまじき事

一 人の相中に讒を企られ諂を以て己が名を立る事

一 衣裳道具以下の美麗を尽し召仕見苦しき事





一貴賤それ〳〵の法のまゝを

一客人を氣随に働く事

一人の非をしのぎて我所

一智はありとおもふ事

一出家沙門しも對面して

以上と心得側中(そばちう)なる事に用

一 我(ろう)分(ぶん)際(さい)を忘し事あるまじく驕(おごり)る気ハ不(ふ)足(そく)れる事

一 下(け)人乃善悪(よしあし)我儘(わがまま)へさせ召(めし)仕(つかひ)やう正(たゞ)しからざる事





一 男女に疎末なく人の
讒謗を知らざる事
一 継子を疎にして他人を忠
嘲哢を恥ざる事
一 男たるみハ縦令男らう義

一 親類（しんるい）あり共疎遠（そゑん）になす事

一 道（みち）を守（まもる）人を嫌（きらひ）嘲ふ

一 謟（へつら）ふ者（もの）を愛（あい）する事

一 人事（こと）を見て我（わが）不機嫌（ふきげん）にし

一 任（まゝ）ならぬとて恨（うら）み不満（ふまん）乃事





一身の垢より人の代あるの代
清る事
志此傳常に己か心を
修べし夫女の心は和
珍らしくのしもがといへども

後(あと)からく性の世べき手(て)也
先(まづ)家(いへ)をもつ教(きやう)戒ハ志(こころざし)
淳(そ)静(なか)りしく毎(まい)事(じ)我(われ)
をもて従夫(おつと)の心(こころ)の道(ちかう)之
しを達天(てん)陽(よう)のしく強(つよ)く





そもそも流みちなり地ハ陰
まして和ぐを以て女の道とせ
陰と陽ハ色の事天地
自然の道理なるゆへ夫婦
のまじハり天地所譬へしを抱など

夫を天として敬すべし
尊ぶハ夫婦則ち天地の道
然れバ幼成より正しく〻學
優しく直なるハ明由東り
の申と初王成懐ぐちし乞





己(おのれ)にしかざる友(とも)にまじはらず
居のうちに書物を讀ば才智(ちの)
は表(うはべ)のみ諂(へつら)ふ人は善(ぜん)悪(あく)
乃友(とも)となるとも似へ年来
実(まこと)交るの輝實(こゝ)ろも聞く

よく家を治る婦人と
云ひ我事を務て家を破
る女の萬の事邪なるを
是とすれ共能き人は常
偽りの目てらへの善悪





と知りぬる書これ其人の
詞は執しむ紫式見て窺
ひ知るゆゑよしあしの様ば
誠乎恥かしき事ならん
況ぶ告書く乱を女を嫉しく

気随(きずい)なる生質(うまれつき)多(おほい)きも是
ありのまゝ見ん心(こゝろ)で朝夕(あさゆふ)怠(をこたり)
わすれずして善(ぜん)を悪(うら)む慎(つゝしむ)
べし仁(じん)義(ぎ)礼(れい)智(ち)信(しん)の五常(ごじやう)
何(いづ)れも人の行(おこなふ)べき道(みち)





まづハ親への教ぎんで
あるべへの書男子ハ師ハ深
撰ミ是を書しと女子ハ
其事つれ恥多ぎし歌も
しおてなどもぞ夫女子ハ

いく程なく夫の家より[illegible]
せまり男婦に淫の事多
認ば親許に止る暫の
うち嫁りても其後を
浮名にて世に才之面を紅

べ





粉ハ代粧ひ鏡を見れど毎
心ハ内を照し添人なり
唯平生嗜むべし我ハ言葉
あつくめぐみ有けれバいふべし山
貪ことなくハ縦貧しくおもて

候へハ早世辱(はぢ)かしきまて達

と恥(おしへ)しもおそろしきなれ又乃(うち)

なる事ニて富(とめ)るもしいかし歳

賢(かしこき)人ハ諫(いさめ)を快く嫌(きらう)事る通し

俗(たぐひ)ハ惑(わく)いへだまして人へかたら





むまれつきはゞ貴きも賤き
もろへて[illegible]人へ[illegible]数なるし
てい[illegible]あるの[illegible]をしらぬ[illegible]
けのんれ善悪をしるし知ら
れぬとも[illegible]るゝ諸人の悪

ろく書入バ善悪面なせ文指く

しも律にて身をしたバ猶

まゞのもり思ひ事をすゞしとし

ちよ千数多の人傳くさ法ゑ

母ハ大学問の當世不国と





さて理し縮めのぐしく昼夜
奴婢乃人心を擾し其人
ふ添も召使も我身を
うへをもまつりえめ奴媚を（ざことのけしいきんみのとくい）
こえずい僻事ちすちも悪人

く成善人也ものなる事
これ是妙かよりれ故み
よる居し動く世間悪嘲を
謗ふこと誠有口嘲あるべく
まみりあしきさかへ欲を慎 慎





しもじも嗜（たしか）せへしあな（穴）
かしこ（賢）

女今川絵

北斎漫画　為一老人筆　自初編至十五編　各一冊ツヽ

此書ハ宇宙の間にあらゆる人物花鳥山水草木生有物と始品物ハすへて洩ることなし古今独歩の画手本なり

富嶽百景　同　全三冊

此書ハ画手本数多有が中にも翁積年肺肝を摧き工夫をこらし富士山絶景数百を摸写せしものにして其神妙自在なること誠に感絶しけり盃の画形物欄等の手本にもなる妙画なり

北斎画譜　同　全三冊

所在人物鳥獣等悉く細筆に摸写せり手近き画手本なり

一筆画譜　同　全一冊

略画の臨本にして一筆にして万物の形を寫す略筆最上の名画なり

絵本庭訓往来　同　全一冊

北斎先生文意に合して人物鳥獣諸国土産物其外品々悉く摸写して解しやすく書画してもすこぶる為になる妙を尽さしめし書なり

絵本女今川　同　全一冊

抑今川ハ女子を制し教導第一の書なり然るに先生文章をわかし幼女の為に貞節賢婦の画を加へ手近きおしへとせられたり

江戸芝神明前三島町　和泉屋市兵衛
尾州名古屋本町通七丁目　永楽屋東四郎

H H